

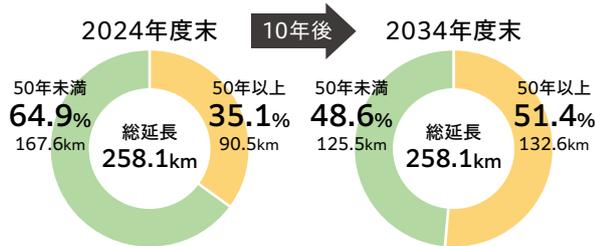
## リニューアルプロジェクトの着実な推進（構造物の長寿命化）

阪神高速グループでは、高速道路を100年先も安全・安心・快適にご利用いただくため、2015年より「高速道路リニューアルプロジェクト」を立ち上げ、これまでに培った知見や最新の技術を駆使して大規模な工事に取り組んでいます。

### プロジェクト発足の意義と背景

阪神高速道路は最初の開通から60年が経過し、「構造物の老朽化」に直面しています。また、車両の大型化、交通量の増加など、過酷な使用状況に起因する劣化が発生しています。定期的な点検や日々のメンテナンスに努めていますが、抜本的な改善には至っていない箇所が多くあります。そこで、高速道路の健全性を永続的に確保し、高速道路ネットワークの機能を将来にわたり維持していくため、2015年より「高速道路リニューアルプロジェクト」を立ち上げました。2023年度には、新たに更新が必要であることが判明した約22kmを追加し、合計約113kmの区間で老朽化した構造物の抜本的な対策を進めています。

### 〈構造物が10年後に到達する経過年数比較（2024年度末時点の供用区間対象）〉



### 構造物の老朽化による損傷状況



### 大規模修繕工事の例 ～阿波座縦目地構造解消工事～

#### 道路面の一体化と橋桁の改良により、走行性の向上や騒音の低減を実現

16号大阪港線阿波座付近では、慢性的な渋滞解消のために1997年に西行車線を拡幅しましたが、既設橋桁と拡幅橋桁を分離構造とし、ゴム製の伸縮装置（＝縦目地）により走行面を連続化する構造を採用しました。

しかし、既設橋桁と拡幅橋桁の間で車両走行によるたわみ差が生じてしまい、接続部の縦目地での損傷や、それに起因する車両走行時の異常音が発生していました。

この問題を解決し、走行性や安全性を向上させるため、2022年6月から終日1車線を規制し拡幅橋桁を取り替え、橋桁・床版を一体化する工事を実施していました。工事は順調に進捗し、2024年5月、車線規制をすべて解除しました。



工事着手前



工事完了後

路面の一体化による縦目地の解消

## リニューアルプロジェクトを支える施策

2024年度には喜連瓜破橋大規模更新工事、阿波座縦目地構造解消工事と二つの大きなプロジェクトが完了を迎えましたが、これまでに完了したプロジェクトで培った技術を総動員するとともに、新しい技術開発を進めながら、100年先も安全・安心・快適にご利用いただけるサステナブルな高速道路を目指していきたくと考えています。

また、リニューアルプロジェクトの実施にあたっては大規模な通行止めや車線規制を伴う場合も多く、阪神高速道路をご利用いただくお客さまにご不便をおかけするとともに、一般道路へのう回車両の増加や工事騒音など周辺地域にお住まいの皆さまへも大きな影響が避けられません。阪神高速道路(株)では、個々の工事箇所において、工事の影響を少しでも低減できるような取り組みを実施するとともに、工事に対する理解促進に取り組んでいます。

### 工事区間のう回促進に向けた取り組み

大規模更新工事や各路線で実施しているリニューアル工事のように通行止めが発生する工事では、通行止め区間を避けたう回ルートを設定し、う回乗継や料金調整を実施しています。

例えば、喜連瓜破橋大規模更新工事では、6号大和川線の開通で多様な経路選択が可能となり、近畿自動車道とあわせて複数の広域う回ルートを設定することができ、工事期間中の交通影響低減に大きく寄与しました。

お客さまにスムーズにご利用いただけるよう、特設サイトの開設や、道路情報板や仮設情報板などを通じ、複数の広域う回ルートの所要時間をリアルタイムで比較いただけるよう案内しています。



広域う回の促進(喜連瓜破工事)



仮設情報板による所要時間案内

### お客さまへの理解促進に向けた取り組み

工事情報やう回ルートを案内するとともに、広くリニューアルプロジェクト実施の意義や背景をご理解いただくことが重要と考えています。

そのため、阪神高速道路(株)では、工事進捗や事業の必要性をわかりやすくお伝えするための工事チラシを作成しています。また、工事見学会や小学校・保育園への課外授業を実施するなど、お客さまへの理解促進のための取り組みを実施しています。

そのほか、リニューアルプロジェクトの意義についてテレビCM、YouTube動画、新聞広告やSNSを活用して工事進捗状況の発信を実施するなど、周辺地域以外の皆さまへ向けても幅広く周知を行っています。



工事見学会



リニューアルプロジェクト紹介動画

## 2024年度に完了したリニューアル工事

### 4号湾岸線(大浜～泉大津) (2024/4/16～4/26)

4号湾岸線(大浜～泉大津間)は、供用から30年以上が経過し、交通量の大幅な増加や車両の大型化などにより、橋の道路床面である鋼床版に疲労亀裂などの損傷が多く発生していました。また、この区間は開通して以来、一度も通行止めなどによる工事を実施しておらず、他の区間と比較しても舗装損傷が顕在化している状況でした。そこで、鋼床版の疲労耐久性の向上を目的としたSFRC舗装や、コンクリート床版の長寿命化に向けた高性能床版防水を実施したほか、損傷部を含む舗装の全面的な更新を行い、損傷が生じている伸縮継手を耐久性が高く新しいものに取り替えました。

そのほか、泉大津PAでは大型車駐車マスの拡充、より見やすい案内標識やカラー舗装の採用、さらには快適にご利用いただけるトイレへの改修などを行い、安全・安心・快適にご利用いただけるための対策を行いました。



工事完了後(4号湾岸線助松JCT)



SFRC舗装の施工状況



改修後のトイレ(泉大津PA)



カラー舗装の採用(泉大津PA)

PICK  
UP

#### 阪神高速リニューアルプロジェクト

大規模更新・修繕事業について、概要や事業意義に加え、事業ごとのご工事内容や規制情報などを阪神高速ホームページで詳しく紹介しています。

詳しくはコチラ



VOICE

#### リニューアルプロジェクトに引き続きのご協力をお願いいたします

リニューアルプロジェクトでは、大規模な工事が多くなりますが、ご利用のお客さまや沿道にお住まいの皆さまをはじめとした多くのステークホルダーの皆さまのご理解・ご協力のおかげで、着実に進めることができています。今後も大規模な工事が必要になりますが、引き続き、これまでの経験や知見を活かし、工事による影響を最小限とするような技術や施策の工夫を重ねるとともに、よりわかりやすい広報やステークホルダーの皆さまとの対話に努めてまいります。



阪神高速道路株式会社  
保全交通部保全企画課  
企画担当課長  
安東 千夏